



田中家石材

田中家通信

あらためて
お正月とは何だろう

明けまして
おめでたいございます

お正月とは日本古来のご先祖様を敬う祖霊信仰と結びついて、一年の初めに天からそれぞれの家に降りてくる「歳神様」としがみさま「ま」をお迎えし、五穀豊饒を願う行事で、飾り付けや習慣にもそれぞれそのことに関係したいろいろな意味があります。歳神様は若年さんや年徳様とも呼ばれ昔の日本に關係の深い穀物霊、つまり農耕の神様です。

「日本人は12月25日からたった5日間です。キリスト教→仏教(年末の除夜の鐘)→神道を通して」なんてちょっとイジワルなことを言われたりしますが、もともと万物に神が存在する八百万(やおよろず)の神を信仰する日本人なら当然のこと。そのベースにはご先祖様を敬う気持ち、これは意識的か無意識にかかわらず、ほとんどの日本人は持っている感覚といえるでしょう。

また、日本人と農耕は切っても切れない関係、お正月はその点からいうと最も日本人らしい行事といえるかもしれません。

初詣ももともとは氏神様の祀られた神社にお詣りしてご先祖様のご加護を願うものだったそうです。

覚えておきたい

語源・由来

初日の出の由来

初日の出を見れば、願いがかなう、健康でいられるなど、地方によってさまざまな言い伝えがありますが、本来は、新しい太陽の光を浴びることで、新しい霊気を宿すと信じられていました。農耕民族であった日本人の太陽信仰に由来しています。



お年玉の秘密

子供にとってはお楽しみのお年玉。お年玉の由来は意外なものでした。歳神様のおかげで人は年齢を一つ増やし、新しい歳を生きるための生命エネルギーを歳魂(としたま)と呼ぶそうです。これを形あるものとして表現したのがお餅なのだそうです。

昔は小さな丸餅を家族の数だけ神棚にお供えし、これを降ろして食べたのです。これがお年玉の原型となりました。

歳神様によって家長に与えられた魂が、親から子へ与えられるようになり、正月に贈られる金銭や物品のすべてを「オトシタマ」というようになりました。



羽根つき

羽子板で羽根を突く遊びです。

羽子板は、古くは「こぎ板」と呼ばれ、幼児が蚊に刺されないまじないとして、羽根を突き合ったのが始まりといわれています。羽根突きが盛んになったのは、江戸時代の元禄の頃といわれ、町家の子女の遊びとして発達しました。



双六



双六は室内遊戯の中でも、最も古い遊びの一つであり、インドに起こり、中国を経て日本へ伝わり、古くから賭けの対象となりました。

日本へは、奈良時代以前に伝わったといわれています。正倉院に残る双六盤は将棋や碁に似た形で、二人用の遊戯具だったことがうかがえます。

現在のような双六になったのは江戸時代のことで、出世双六と道中双六が作られたものこの頃のことです。

鏡もち

お正月のシンボル、鏡もち。

鏡もちの由来は、平たくて丸く、当時重宝がられた鏡に似ているからという説があります。

鏡もちの飾りはそれぞれ意味があり、裏白は長寿と夫婦円満、ゆずり葉は「家系が絶えない」、昆布は「よろこぶ」に通じ、橙は代々栄えるのシンボル。

お正月用の餅つきは28日までに済ませるのが習わしです。29日の9を「苦」になぞらえ、「苦をつく」からと避けたのです。



田中家石材編集部より

あけましておめでとうございます。私どもは、お墓を建てる仕事を仰せつかって、おかげさまで九十余年になります。

お墓を建て、お仏壇をご安置しても、仏事や墓参をしなければ、何の意味もありません。

お墓、お仏壇とは、その家の根っ子であり、お仏壇の給仕とお墓参りを行い、年忌法要を行っておられるお家は、祖先崇拜の恩恵を受け、一家の繁栄と家族がみんな幸せになっていくと思っております。

お墓は死者の家ではありません。祖先を祀り、感謝と祈りの祭壇であり、氏神や鎮守の神に連なる祭壇だと思っております。

祖先や親の墓を美しく保ち、祀り事を欠かさず行うことは、祈りの心が先祖の心に通じ、家内平和、無病息災を見守って頂けるものと信じます。

特にお正月、春秋お彼岸、お盆には必ず、お墓、お仏壇にお参りしましょう。

当社は、祀り事の具体的な方法をはじめ、お墓、墓地の改葬等、ご相談、お手伝いさせて頂きたく思っております。

本年、皆様にとって佳き一年でありますように...